1303 D281

ツインフラットシリーズ センターフード（天井取付タイプ） 取付説明書

壁スイッチ仕様・電動ダンパー仕様で補足説明書が同梱されている物は、それに基づき電気工事をおこなってください。

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警告：**人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**

⚠注意：**人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。**

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

分解・修理・改造禁止
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

取付注意
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります

取付注意
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります

アースを取り付ける
- アースを確実に取り付けること
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください

取付注意
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

取付注意
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

埋込禁止
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意
- レンジフードの取り付けは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります

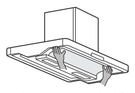
使用禁止
- 交流100V以外では使用しないこと
  火災・感電の原因になります

取付注意
- 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
  排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

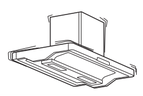
⚠注意

手袋をする
- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取付注意
- ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります



取付注意
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります



使用禁止
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります

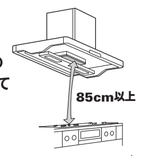
接触禁止
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
  けがをするおそれがあります

取付禁止
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります

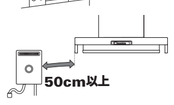
取り付け上のお願い

- **下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。**
  - **・大工工事【設置のための下地工事等】**
  - **・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】**
  - **・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】**

  流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ・ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。また調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m³/h時50Pa以下のものをご使用ください。
  防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
  なお、製品取付高さは、アクアスリットフィルタの下端が調理機器の真上85cm以上になるようにしてください。



- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。また、横方向50cm以上離して取り付けてください。
  湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。

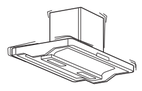


- 電源は専用のコンセントおよびブレーカーを設けてください。
  火災・故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm²程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

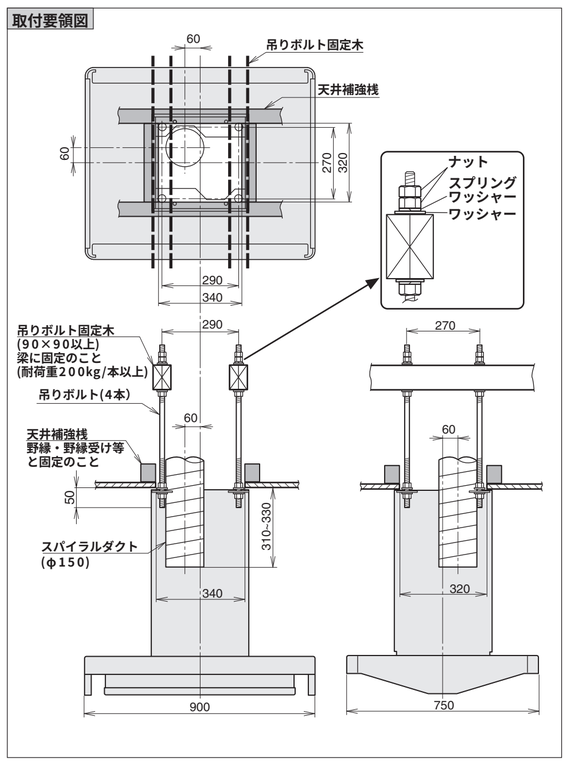
取り付け前の調査と準備

⚠注意

取付注意
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります



取付要領図

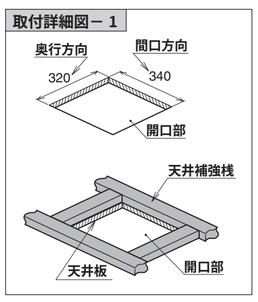


■ 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

製品単体質量	28.0 kg

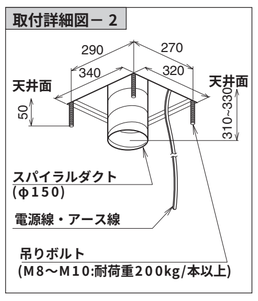
1 天井面への穴あけ（取付詳細図－1）
1）天井面の本体を取り付ける位置に間口340×奥行320の開口をあけてください。
2）開口部周辺を補強桟で補強してください。
※補強桟は、野縁・野縁受け等に固定してください。

取付詳細図－1



2 吊りボルトの取り付け
（取付詳細図－2）
本体の天吊り穴に合わせて、吊りボルトを垂らしてください。
※ 吊りボルトは、M8～M10を用いてください。
※ 製品の重量は約28kgです。吊りボルトは耐荷重200kg／本以上となるように取り付けてください。

取付詳細図－2



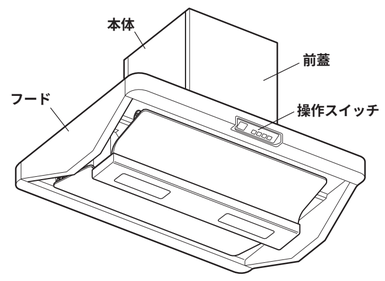
3 排気ダクトの取り出し
（取付詳細図－2）
φ150のスパイラルダクトを、取付要領図の位置に取り出してください。

4 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面からアクアスリットフィルタの下端まで85cmです。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。

5 電源線・ブレーカー
- 本体を設置する場所の図の位置（取付詳細図－2参照）に電源線（VVFケーブル2芯φ1.6またはφ2.0）とアース線を1500mm引き出してください。（本製品は交流・単相100V仕様です。）
- ブレーカーは専用のものを設置してください。

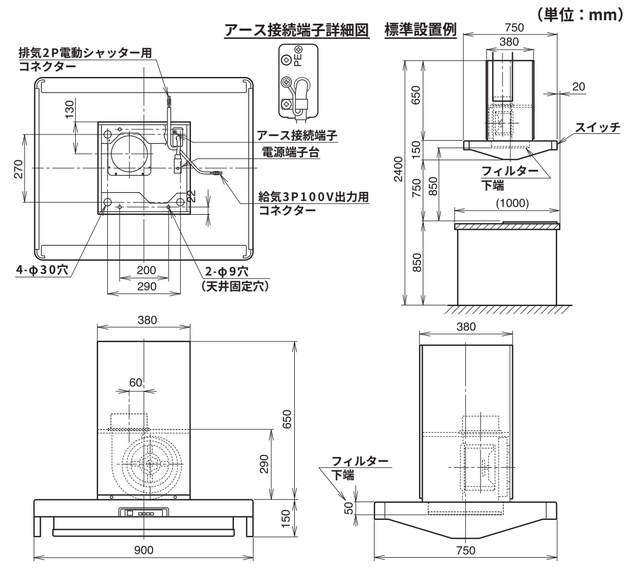
お願い 必ずアース（D種接地工事）をしてください。
レンジフードが誤作動することがあります。

各部のなまえ

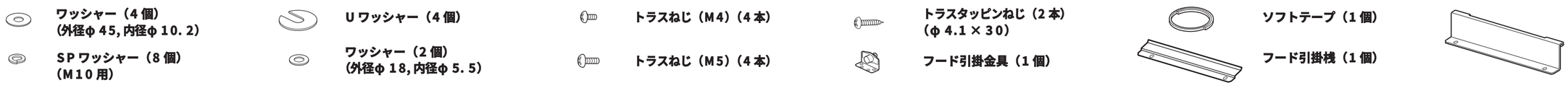


製品寸法図

（単位：mm）



付属品



- ワッシャー（4個）（外径φ45, 内径φ10.2）
- SPワッシャー（8個）（M10用）
- Uワッシャー（4個）
- ワッシャー（2個）（外径φ18, 内径φ5.5）
- トラスねじ（M4）（4本）
- トラスねじ（M5）（4本）
- トラスタッピンねじ（2本）（φ4.1×30）
- フード引掛金具（1個）
- ソフトテープ（1個）
- フード引掛桟（1個）
- フード固定金具（1個）

取り付けかた

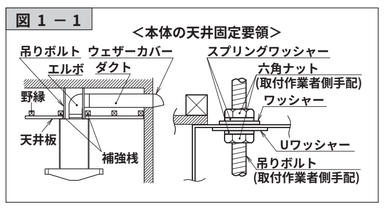
1．本体の準備

⚠注意

手袋をする
- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

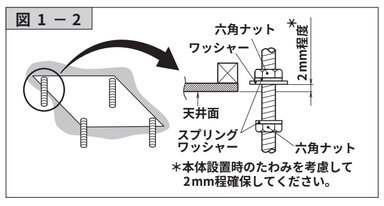
1 付属品を確認します。
梱包箱から本体、フード、金具類、ねじ等の付属品を取り出して確認します。

図1－1



2 4本の吊りボルトに図1－2の要領で、六角ナット（取付作業者側手配）・ワッシャー・スプリングワッシャーをセットしてください。（図1－2）

図1－2

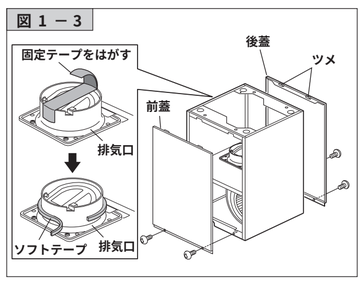


3 本体前後の蓋をはずします。
（図1－3）
下部にある2本のねじと上部のツメを本体からはずします。

4 排気口にソフトテープを貼り付けます。（図1－3）
排気口のシャッター固定テープをはがし、ソフトテープを巻きます。

お願い
シャッター固定テープは輸送中の固定用テープです。必ずはがしてください。

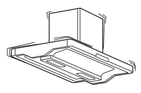
図1－3



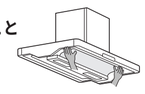
2．本体の取り付け

⚠注意

取付注意
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります



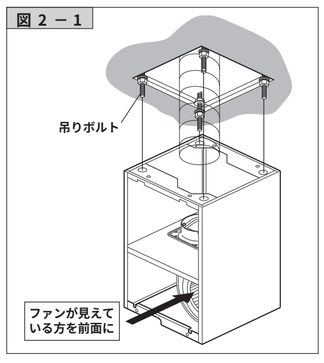
取付注意
- ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります



1 本体を吊りボルトに差し込みます。
（図2－1）
本体上部の穴に天井の梁から出ている4本の吊りボルトを差し込みます。
排気口に排気ダクトを差し込みながら、本体を天井まで持ち上げてください。

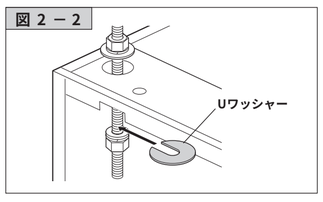
お願い
ファンの羽が見える面がフードの操作スイッチの面（前面）となりますので向きを確認して取り付けてください。

図2－1



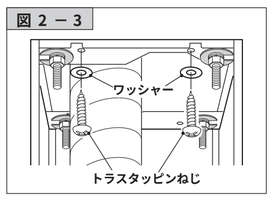
2 吊りボルトに固定します。
（図2－2）
付属品のUワッシャーを本体上部の内側4ヶ所に差し込み、ナットで締め付けます。

図2－2



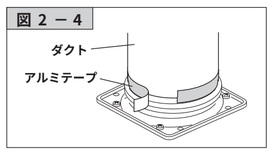
3 本体を天井面に固定します。（図2－3）
付属品のトラスタッピンねじ2本（位置ずれ防止用）にワッシャーを通して本体内側から天井に取り付けます。

図2－3



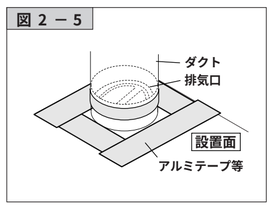
4 接続部をテーピングします。（図2－4）
ダクトの接合部へ風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこなってください。

図2－4



■ 排気口設置面の漏風確認のお願い
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（フード天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。（図2－5）

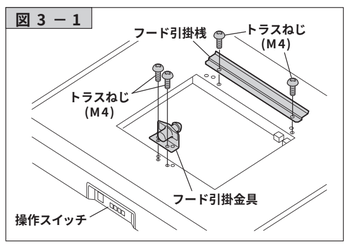
図2－5



3．フードの取り付け

1 フード引掛金具とフード引掛桟を取り付けます。（図3－1）
1）フード上面前側（操作スイッチ側）に付属品のフード引掛金具をトラスねじ（M4）2本で取り付けます。
2）反対側に付属品のフード引掛桟をトラスねじ（M4）2本で取り付けます。

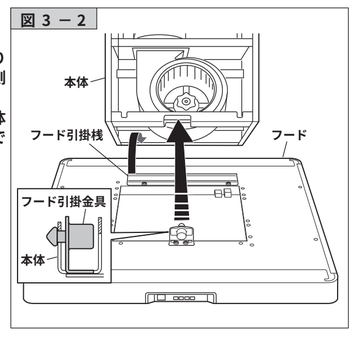
図3－1



2 本体にフードを取り付けます。
（図3－2）
1）フードを持ち上げ、やや左寄りにしてフード引掛桟を本体内側のフランジに差し込みます。
2）フードのフード引掛金具が本体に「カチッ」とロックするまで持ち上げます。

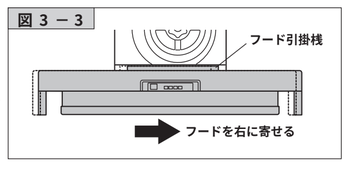
お願い
フード引掛金具のストッパーが本体の桟に確実に引っ掛かったことを確認してください。
ロックが不完全なまま作業を続けると、フード部が落下するおそれがあります。

図3－2



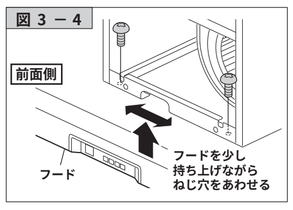
3 フードを右へ寄せます。
（図3－3）
本体のフランジとフードのフード引掛桟右端が合わさるまで寄せると、本体とフードの取付穴が合います。

図3－3



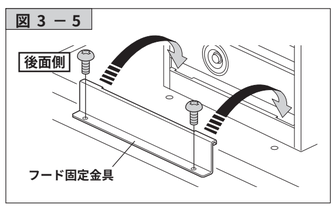
4 フード前面を固定します。（図3－4）
前面側を付属品のトラスねじ（M5）2本で本体とフードを固定します。フード部を少し持ち上げて、ねじ穴を合わせながらねじ止めしてください。
※ ねじを締め付ける際には、インパクトドライバー等は使用しないでください。ねじ部が損傷するおそれがあります。

図3－4



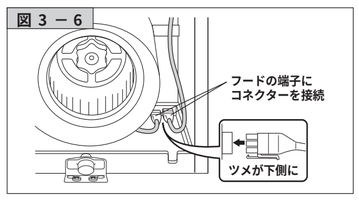
5 フード後面を固定します。
（図3－5）
付属品のフード固定金具を本体後側に引っ掛け、付属品のトラスねじ（M5）2本でフードに固定します。
※ ねじを締め付ける際には、インパクトドライバー等は使用しないでください。ねじ部が損傷するおそれがあります。

図3－5

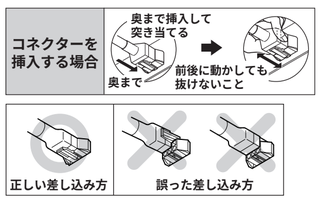


6 コネクターを接続します。
（図3－6）
本体から出ている6Pおよび9Pコネクターをフードの端子に正しく接続します。

図3－6



お願い **コネクターの接続について**
コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。
コネクターを確実に接続しないと作動不良や発熱などによる故障の原因になります。



4．電気配線

⚠警告

分解・修理・改造禁止
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

使用禁止
- 交流100V以外では使用しないこと
  火災・感電の原因になります

取付注意
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります

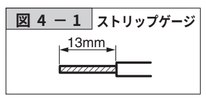
アースを取り付ける
- アースを確実に取り付けること
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください

■ 必ずアース（D種接地工事）をしてください。
※アース線は取付作業者側にて手配してください。

お願い 専用のブレーカーを設けてください。

1 ダンパー連動用100V出力線の配線は、電線被服をストリップゲージに合わせてむきます。（図4－1）

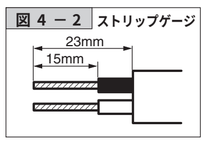
図4－1 ストリップゲージ



2 電源端子台への接続は、電線被覆を2本ともストリップゲージに合わせてむきます。（図4－2）

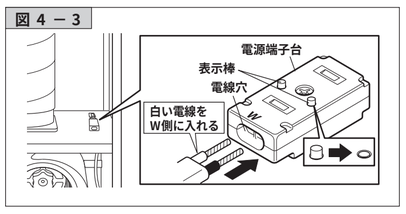
お願い ストリップの長さを必ず確認してください。
適用電線はφ1.6またはφ2 VVF2芯Cu（銅）単線専用です。

図4－2 ストリップゲージ



3 白色の電線がW側に入るように、電線穴に芯線を2本同時に差し込み、表示棒が下がることを確認してください。
（図4－3）

図4－3



4 充電部の露出がないことを確認します。

5 ワイヤークランプで電線を固定します。
（図4－4）

お願い
ストリップ長さが適切でない場合や表示棒が下がってない場合は、端子部の異常発熱の原因になり危険ですので、ストリップ長さを再度確認の上、結線をやり直してください。

- ・電源線のはずしかた（図4－5）
  1. 電線はずしボタンをマイナスドライバーで押しながら、
  2. 電線を引き抜く。

図4－4

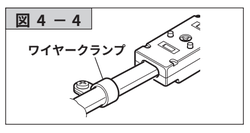
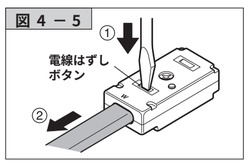


図4－5



5．組み立て

⚠注意

取付注意
- ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

■ 本体前後の蓋を取り付けます。
前後蓋上部のツメを本体に引っ掛け、下部の2本のねじでしっかり固定します。
（1.本体の準備（図1－3参照））

お願い
前後の蓋はそれぞれ取付ねじの位置が異なりますので、間違えないように取り付けてください。

6．試運転

⚠注意

接触禁止
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
  けがをするおそれがあります

■ ブレーカーを「入」にします。
■ 各操作スイッチを押し、運転状態を確認してください。
スイッチの操作、運転状態等については取扱説明書をご覧ください。
■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
■ 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

7．お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

[製造元] 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1－9
TEL 042(768)3754（営業部）